

11	海部	大治町立大治西小学校	マセ フミホ 名前 間瀬文穂
分科会番号	19	分科会名	読書・学校図書館

研究題目 興味をもって本と関わり、進んで本に親しむ児童の育成

研究要項

1 はじめに

文部科学省は、児童生徒の「読書センター」としての学校図書館の機能として、児童生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導の場としている。また、「学校教育の一環として、すべての子どもに、本を選んで読む経験、読書に親しむきっかけを与える」ことや「子どもたちが、自由に好きな本を選び、静かに読みふける場を提供したり、さまざまな本を紹介したりして、読書の楽しさを伝える」ことが記載されている。

さまざまなメディアの発達・普及により、読書離れが指摘されている昨今、本校児童も例外ではない。調べ学習等では、調べたいことを手軽に速く検索できるインターネットを利用することが多くなり、図書を用いることが少なくなった。キーワードを入力すればあふれるほどの情報が手に入るスマートフォンやタブレット端末を手にし、資料としての図書に必要性をあまり感じていない様子が見受けられる。

また、朝の読書タイムが週2、3回あるが、同じ本を繰り返し読んでいたり、パラパラとページをめくり挿絵を目で追っていたりするだけで十分に読めていない児童が多くいる。特に、高学年は自宅から本を持参する児童が多く、どの学年においても図書室を利用している児童は限られている。そのため、読んでいる本には偏りが多く、図書室へ足を運ぶ機会も少ないため、学校の図書室にはどのような本があるのかあまり知らない児童が多い。

そこで、本に興味がない児童や図書室へほとんど足を運ばない児童が図書室に足を踏み入れるきっかけをつくる必要があると考えた。児童が自ら本を手に取りたくくなるような環境づくりや取組を行うとともに、本が好きな一部の児童だけでなく多くの児童に向けて、図書室や本についての情報を発信する場をつくる必要がある。また、好きなジャンルだけでなく、他の本を知るきっかけとなる機会を設けたい。本に親しむ経験を通して、読書や学校図書館に対する関心を高めてほしいと考え実践に取り組んだ。

2 研究の方法

(1) 目指す児童像

- ① 興味をもって学校図書館に関わりをもつことができる児童
- ② さまざまなジャンルの本に親しむことのできる児童

(2) 研究の仮説と手だて

目指す児童像に迫るため、以下に示す二つの仮説を立て、それに対する手だてを講じた。

① 仮説1

学校図書館に関する情報を提供したり、身近に感じる活動を広めたりすることで、学校図書館について知り、利用する児童が増えるだろう。

手だて

- ア 学校図書館の整備・利用しやすい環境づくり
- イ 図書委員会を中心としたイベントの開催
- ウ 図書委員会以外の児童にも本と関わる活動に参加する機会の設定
- エ 校内放送やタブレット端末を活用して、本に関する内容を発信する活動

② 仮説2

本を紹介し合ったり、さまざまなジャンルの本を目にしたたりする機会を増やすことで、普段は手にとらない本にも触れ、さまざまなジャンルの本に関わることができるだろう。

手だて

- ア 本の紹介文の掲示・おすすめの本の展示
- イ 児童同士の本の紹介活動

3 研究実践

(1) 学校図書館に関する情報を提供したり、身近に感じる活動を広めたりする取組（仮説1）

① 学校図書館の整備・利用しやすい環境づくり（手だてア）

ア 書架の整備

a 季節の本コーナー

図書室に入って最も目につくところに、季節の本コーナーを作った（写真1）。春夏秋冬の季節に合わせて植物の本を集めたり、季節に合わせた遊びを紹介する本を並べたりした。他にも、10月にはハロウィンに合わせておばけの本やかぼちゃの本などを並べたり、修学旅行の時期には奈良・京都についての本や各地の名所などの本を並べたりした。また、新しく本が入ったときには、図書委員会がその中から選んだおすすめの本を、おすすめの本カードとともに並べた。時期や行事、テーマを決めて、本や飾りを定期的に入れ替え、興味を引くようにした。図書室の中央にあるため、本を入れ替えると図書室の雰囲気が変わり、このコーナーを見ている児童もよくいる。いつでもこのコーナーにある多くの本が貸し出しされている。



【写真1 10月の季節の本コーナー】

b 教科書に出てくる本コーナー

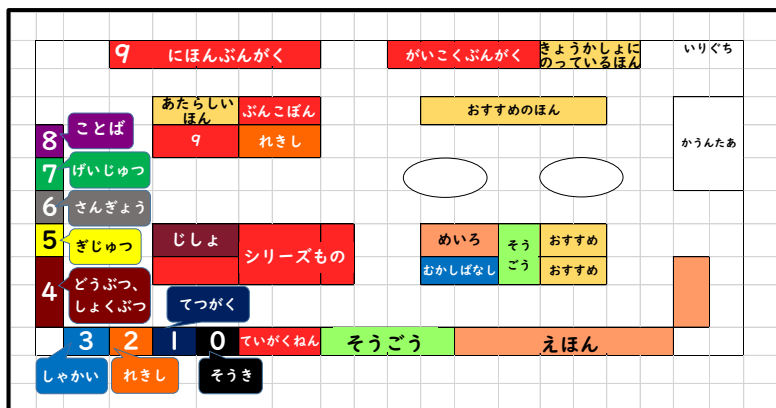
各学年の国語科教科書に載っている話やそのシリーズ、教科書に紹介されている本を配架するコーナーを設けた（写真2）。背表紙に学年の数字を書いたシールを貼り、学年ごとにまとめて配架し、大きく見出しを付けた。また、「宮沢賢治」「新美南吉」など、作者ごとにコーナーを設けているものもある。授業で活用する場合、このコーナーから探せばよいので便利であった。授業で興味をもった児童も本を見つけやすい。また、その学年に合った本が置いてあるので、自分に合うものや興味をもつものを見つけやすく、授業とは関係のない時にもそのコーナーを利用する児童もいる。



【写真2 教科書に出てくる本コーナー】

c 大きな見出し・図書室配置図

図書室に配置図（資料1）を掲示し、どこにどの本があるのかを視覚的に分かるようにした。また、置いてある本の分野と分類番号を示した大きな見出し（写真3）を本棚の近くに掲示することで本を見つけやすくした。



【資料1 図書室配置図】



【写真3 本棚の見出し】

イ 楽しむことのできる場づくり

少しでも多くの児童が図書室に足を運ぶことができるように、読書にあまり親しんでいない児童も楽しんだり、足を止めるきっかけになったりするよう工夫を凝らした。1月には、図書室の本を借りたら引くことのできるおみくじをカウンターに用意した。「かいけつゾロリ」などの人気シリーズのキャラクターのパズルを作って、図書室で自由に遊べるようにしたり、図書室前の廊下に本の内容に関するクイズを掲示したりした（写真5、6、7）。

② 図書委員会を中心としたイベントの開催（手だてイ）

年間に3回、図書委員会のイベントとして、図書室ビンゴを行った。

第1回（6・7月）の図書室ビンゴでは、普段図書室をあまり利用しない児童にも多く図書室に足を運んでほしいという願いをもって取り組ませた。ビンゴは、「5・6年生用」「2・3・4年生用」「1年生・特別支援学級用」の3種類を用意した。9マスの中に、図書室のきまりや使い方、図書室内の飾りなどについてのクイズを書き入れビンゴを作った。多くの児童が図書室に興味を向けたり参加したりすることを目的としたため、内容が難しくなく、参加しやすいように簡単なクイズを、図書委員会の児童と考えた。1列揃った児童には、図書委員会手作りのしおりをプレゼントした。しおりを交換する廊下は混雑するほど多くの児童が参加した（写真4）。ただ、本を読んだり図書室の中に入ったりしなくても分かるクイズが多いため、図書委員会の児童からも、「ビンゴはしても、図書室の中に入らない子もいる」「本を借りる子はあまり増えていない」という声があがった。



【写真4 図書室ビンゴのしおり交換の様子】

第2回（11・12月）の図書室ビンゴは、図書室に入って本を開く児童を増やしたり、図書室について知ってもらったりしたいという願いを込めた



【写真5 高学年用図形パズルコーナー】



【写真6 図書室パズルをする児童】

内容を、図書委員会の児童と考えた。第2回は「高学年用」「中学年用」「低学年・特別支援用」の3種類に分けた。分類番号や本の作者名、本を開いて答えを見つけるものなど、図書室や本に触れることで答えられる問題にした。また、どの列でも「本を借りる」ということをビンゴの項目に入れた。



【写真7 図書室前クイズコーナー】

第3回(2・3月)も、第2回と同様に3種類を用意した。第3回は、本を借りる児童が増えてほしいという願いをもって行った。また、図書室パズルをしたり、本にあるクイズをしたりする項目も入れ、楽しんで取り組める要素を取り入れた(写真5、6、7)。「おすすめの本カードを書く」ことに取り組んだ児童のカードは図書室前に掲示した。

第1回は、初めての図書室ビンゴを楽しみに、とても多くの児童が参加した。第2回、第3回になるにつれ、少しずつ人数は減ってしまっていたが、3回を通して多くの児童が参加し、図書室には多くの児童があふれた。別の内容のイベントを行うことも考えたが、今回は3回とも「図書室ビンゴ」にしたことで、図書委員会の児童が内容を考えやすく準備に時間を費やすことができ取り組みやすかった。また、状況に合わせて改善させることができた。児童からも「やった、またビンゴが始まる」「今度も絶対クリアするぞ」と楽しみにしている声もあった。低学年・中学年は多くの児童が参加したが、高学年については、参加率の低さが課題となった。

3学期 図書室ビンゴ(3・4年生用) 【2/26(月)~3/8(金)】		
		()年 ()組 () ()番 【名前】
ビンゴにちようせんしてね。たて・横・ななめ、どれか1れつでもそろったら、読書に使えるプレゼントがあります。このビンゴをしたらこの解答用紙を持って、図書室に来てください。がんばってね!!		
【1】迷路の本を見て、ゴールまで行った。	【2】もんだい物語(文学)の本の分るい番ごうの数字は? 1~9でこたえてね	【3】ねごとが出てくる本を借りた。(絵でも登場人物もいいてす)
できたら、右の顔に色をぬりましょう。	答え(数字)	かりたら、右の口に、スタンプをおしてもらいましょう。
【4】おすすめの本カードを書いた。	【5】教科書に出てくる本コーナーの自分の学年の本をかりた。	【6】「み」がつくだいな名の本をかりた。
カードを書いて図書委員にわたしたら右の口に、スタンプをおしてもらいましょう。	かりたら、右の口に、スタンプをおしてもらいましょう。	かりたら、右の口に、スタンプをおしてもらいましょう。
【7】図書室パズルをかんせいした。	【8】植物にかんけいする本をかりた。	【9】もんだい「かいけつノロリ」シリーズの作者の名前は?
図書室パズルをかんせいしたら右の顔に色をぬりましょう。	かりたら、右の口に、スタンプをおしてもらいましょう。	こたえをかいてね
★ビンゴクリア★		≒ビンゴになって、プレゼントをわたしたら、図書委員会がスタンプをおします。プレゼントは、一人1つまでです。
1さつの本をかりて、クリアできるのは1つだけです。スタンプをおしてもらいたいほうをえらんで、図書委員に言ってください。		

【資料2 第3回図書室ビンゴ(中学年用)】

③ 図書委員会以外の児童にも本と関わる活動に参加する機会の設定(手だてウ)

ア 児童会主催「学校の本を大切に楽しく読もうキャンペーン」

児童会が中心となり、児童会・図書委員会共同で「学校の本を大切に楽しく読もうキャンペーン」を行った。本などの共有物を大切に扱ってほしいという願いを伝えるポスターを児童会役員が作成・掲示し、キャンペーン中は図書室の入口で呼び掛けた(写真8)。また、図書室の本を貸し出す際に、図書委員会から本を大切に扱って、読書を楽しんでほしいことを伝えた。また、児童会役員の児童が返却後の本の破損がないかチェックをした。さらに、高学年の各クラスからボランティアを募集し、破れている本の修復作業を行った(写真9)。



【写真8 呼びかける児童会役員】



【写真9 本の修復作業をするボランティア児童】

イ 図書室ボランティア

図書室ビンゴのしおり作成、本棚の整理、図書室の掲示物作成など、図書委員会以外の児童にも図書室の活動に関わる機会を設けた。

④ 放送やタブレット端末を活用して、本に関する内容を発信する活動（手だてエ）

ア 図書室紹介動画

本校は、図書室が二つに分かれていて、暗く利用しづらい現状があった。広い空き教室ができたため、そこを図書室として整備を行った。新しい図書室の開館にともなって、図書委員会で「図書室紹介動画」を作成した。図書室に並んでいる本の紹介、本の並び方、貸出・返却の仕方や図書室のルールについて動画で説明した。紹介した動画は、教職員の共有ドライブで管理し、教職員が自由にタブレットで見られるようにした。図書室開館前に、全クラスで教職員タブレットを利用して各教室で動画を見せた。図書室開館日には、待ちに待ったかのように、多くの児童で図書室があふれかえった。多くの先生から「動画の効果は大きいね」「動画を見て、早く図書室へ行きたいと子どもたちが話していたよ」などと子どもたちの声を伝えてもらった。また、図書室開館のときだけでなく、1年生の図書室紹介ビデオに活用したり、年度初めに図書室のルールの確認をしたりする際に活用している。

イ 給食放送やタブレット端末を利用した本の紹介、図書室についての情報の発信

図書委員会がすすめる本を給食時の校内放送で紹介したり、各教室でおすすめカードを掲示したりして、図書室に足を運ばない児童にも情報を伝えられるようにした。また、新しく本が入ったときには、動画を作成し紹介した。また、図書室イベントの情報や状況、貸し出しについてのお知らせなどを、校内放送をし、全校に知らせるようにした。

(2) 本を紹介し合ったり、さまざまなジャンルの本を目にしたりする機会を増やす活動（仮説2）

① 本の紹介文の掲示・おすすめの本の展示（手だてア）

ア 図書委員会・先生のおすすめの本コーナー

図書委員会や教師が書いた「おすすめの本カード」を貼り、その本とともに常時展示した。本とおすすめの本カードが一緒に置いてあるため、本が手に取りやすいようだった。教師もそれぞれの視点でさまざまな本を紹介してくれるので、多ジャンルにわたっている。また、工夫を凝らした紹介カードで、児童の目を引いていた。

それとは別に「図書委員会のおすすめの本コーナー」を設けた。図書委員一人一人に自分専用の本立てを用意し、おすすめの本を立て、図書室の入口のそばに置いた。1、2週間の周期で図書室当番のときに本を入れ替えるようにした。おすすめの本カードを書くのは大変だが、本を入れ替えるだけなので、児童にも負担があまりない。入口の目につくところにあり、こまめに入れ替わるため、そのコーナーを見る児童も多く、常にほとんどの本が貸し出しされていた。

イ 児童のおすすめカードの掲示

図書室ビンゴで児童が書いた「おすすめの本カード」や、国語科等の授業で児童が書いた本の紹介カードを図書室前に掲示した。

② 児童同士の本の紹介活動（手だてイ）

1年生児童で本を紹介し合う活動を定期的に行った。じっと座っていることが苦手で、朝の読書タイ



【写真10 先生のおすすめの本コーナー】



【写真11 図書委員会のおすすめの本コーナー】

ムの時間、静かに一人で10分間読書をするのも難しいのが現状であった。本を置いてあるだけで、後ろを見ておしゃべりをしてしまったり、絵をぼんやりと見ていたりする児童が多い。毎日同じ本を開いている児童もいる。そこで、本の幅を広げるとともに、友達と一緒に本を読みながら、読書する楽しみを感じてほしいと願い、本を紹介して読み合う活動を行った。

4人グループになり、本を以下のように紹介することにした。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ わたしの好きな本は「〇〇」です。 ・ 〇〇と〇〇（登場人物）が出てきます。・ 〇〇したところが好きです。（おもしろいです。不思議でした。など） |
|--|

紹介する時間は一人3分間とし、紹介が終わったら質問タイムをとり、時間が余ったらグループ皆でその本を読んだ。どのグループも、身を乗りだして楽しそうに本を読み合う姿が見られた。紹介する児童は、皆に本の題名が見えるようにしたり、ページをめくりながらおすすめの様子を見せたりするようになった。具体的に話すことが苦手な児童も、「ここがおもしろいです」と本を開いて見せて楽しんでいた。慣れてくると、ページをめくりながらあらすじを話すなど、詳しく説明するようになった。次から次へと質問が出たり、皆で頭をくっつけて本を読んだりしている姿が多く見られ、毎回時間が足りない様子だった。本を読み合った後に図書室に行くと、「その本、どこにあるの」と聞き合っており、友達が紹介した本を借りている児童もいた。一人読書は難しく、読解力にも差がある1年生児童には、互いに本の楽しさを共有したり教え合ったりすることができる活動が有効であったと感じた。一人3分間4人グループで合計12分、時間が足りないときは一人2分で行い合計8分のできるため、隙間時間に行うことができ、機会を多く設けることができた。



【写真12 本を紹介する児童】

4 成果

図書室の移設にともなって、児童が使いやすく入りたくなる図書室を目指して環境整備に取り組んできた。利用したい本を見つけやすい書架を作ることができた。図書室ビンゴは、児童の現状に合わせてビンゴの内容を変えて取り組むことができ、図書委員会も児童も楽しんで取り組み充実した活動となった。短期でも取り組みやすい遊び的な要素を多く取り入れた結果、多くの児童が参加し、図書室に目を向けてもらうきっかけとなった。特に、1～3年生は児童の過半数を超える参加率であり、3回ともにそれぞれの目的は達成することはできた。さまざまな児童が本に関わるが増加し、図書室について知らせる機会が増えた。また、図書室移設にともなって本の移動、整理整頓、看板づくり、飾りつけなどに多くの6年生が関わった。その中で「学校にこの本あるんだね、知らなかった」「この本おもしろそう」などの声があった。改めて「知ってもらおう」ことから始めることが大切だと実感した。図書室内だけでの取組では広まっていけないので、イベントや放送、動画など、さまざまな形で全校児童に発信できたことは「知ってもらおう」ことに役立った。

5 課題

- ・ イベント時や紹介動画を流した後は、多くの児童が図書室に足を運び、貸出冊数が急増したが、一時的なものであり、しばらくするとまた図書室利用者は元のように少なくなってしまった。定期的に児童の興味を引く活動を繰り返し行い、読書習慣を定着させていく必要がある。
- ・ 図書室ビンゴは本校の現状に合わせた取組内容で実施できたが、今後もっと読書活動を広げられる内容も考えていく。一定以上の読書習慣が身に付いている児童がさらに読書を広げるための取組と、読書習慣が身に付いていない児童が本に歩み寄るための取組との2種類の方向からアプローチを行う必要がある。